

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600155		
法人名	社会福祉法人ひとつの会		
事業所名	グループホーム自由の杜		
所在地	山口県防府市大字大崎801-1		
自己評価作成日	令和5年9月5日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「喜怒哀楽」を基本に利用者一人ひとりの思いや個性を尊重し毎日が楽しく利用者と職員がお互いに笑顔で過ごせるように日々努力しています。さまざまな場面の中で役割があり、時には利用者の方同士が気軽に声をかけあい、また助け合いながら共同生活を送られています。今と言う時間を大切に、季節に合った行事や外出行事を多く取り入れ楽しみがつねに溢れているホームを目指し時にはご家族と共感出来るように取り組んでいます。誕生日には利用者の希望に添えるように個別外出を企画し、日頃は共同生活だけれども、いつもと違った外出で開放感を味わってもらえと喜んでいただいています。また、ホーム内利用者全員でお祝いし、喜びは皆で分かち合えるように取り組みをおこなっています。利用者の方、そしてご家族の方、職員がしっかりと手を繋ぎながらハートのあるひとつの輪となり、もうひとつの『我が家』と感じていただける家作りを目指し、日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念をもとに事業所ユニット目標を定め、ビジョンを明確にし取り組んでいる。職員は利用者一人ひとりに個性があり、決して全員同じ生活が正解でないこと、生活において誰もが喜怒哀楽を感じながら暮らしていくことの大切さを認識し、一律のケアではなく、利用者のこれまでの生活やできること、好きなことなどを取り入れ24時間の生活リズム表を個々に作成し、意向に沿った一日の過ごし方をサポートしている。日常様々な支援や健康管理に配慮することで心身状態の維持に繋げ、日々の関わりをはじめ、月に1~2回の昼食の日として食べたいものや意向を反映した食事作り、行事の計画、誕生日には個別外出を企画するなど個人の思いや意向を大切にされた支援を実践している。利用者の喜びを職員も分かち合い寄り添うことで笑顔の溢れる生活を実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのままで変更しないでください】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 喜怒哀楽の実践の継続を行い、毎日表情豊かな日々を送っていただけるように努めている。毎月のホーム内行事や外出を企画し利用者とともに職員も一緒に楽しみ、喜びを分かち合えるように支援を行っている。ホーム周辺の四季折々の自然を感じ散歩をしたりしながら毎日笑顔の絶えない生活を送られるように支援している。	理念・目標を事務所に掲示し、朝と昼それぞれのミーティングで確認している。毎年職員個々に1年の振り返りを行い、各自の振り返りを総合してユニットの年間目標・コンセプトを策定し、取り組む目標を明確に定め丸となり取り組んでいる。半期毎にチェックし見直しも行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の方にも馴染みある施設として、関係を築けるように努めている。年1回認知症講座を、昨年同様に、地区の公民館の高齢者教室で行った。また今年度は、玉祖連合自治会と地域包括支援センターとの防災リーダー研修会を行った。この研修会では、避難された想定で避難者の日常生活動作のお手伝いが出来るように介護技術のレクチャーを担当した。	自治会に加入し、回覧板などにて地域情報を確認し事業所情報を発信するなど相互の情報共有を行っている。地域との防災リーダー研修や清掃活動など身近な付き合いがある。コロナ禍以前では法人夏祭りに地域の方の来所があり、近隣団地に利用者と案内のポスティングも行っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ認知症高齢者の理解を得られるように年1回講座を継続している。運営推進会議では自治会長、民生委員の方も交えて、毎回報告を行っているが、地域の状況や、問題など意見交換をし、何かできることがあればお互いが協力出来る体制づくりに努めている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価については、意義を理解し、毎年見直しを行いながら、現状の向上及び改善できるように努めている。日々の実践を振り返りながら、自分たちの実践している内容を、見直し各項目に記入している。	毎年自己評価は職員各自が行いそれぞれに取り組みを振り返ると共に、評価の意義や各項目毎の趣旨を理解する自己覚知の機会としている。管理者は職員の評価をまとめ、ここが利用者の家であること、家だからこそ利用者がありのまま生活が行える大切さを職員に伝えている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い毎回行事等の報告の他に、事故報告、ヒヤリハット報告の検証や、事業報告、事業計画など色々と報告を行い、意見交換を行っている。外部評価についてや日程及び内容、結果もその都度会議の場でご報告を行っている。	会議では、資料や日々の活動や行事などをスライドで説明し、表情や様子を分かりやすく伝えている。感染症防止の取り組みなど写真による説明により内容も理解がし易いものとなっている。手洗いをしても感染するとの家族の意見にウィルスチェッカーを使用し手洗いの研修を行った例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、更新時申請時の書類提出やグループホーム連絡会のリモート会議時、電話などで相談をして助言を受けたり、情報交換して協力関係を築いている。	運営推進会議議事録は市担当課窓口まで直接持参し顔の見える関わりであり、地域包括支援センターは法人が受託し運営し、相談や連携も行い易い。地域の認知症講座を毎年地域包括支援センターと管理者とで講師を行い実施している。秋の福祉センター文化祭では作品展もしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について法人研修、内部研修に学ぶ場があり、個々を見直す機会がある。また事業所のミーティングにて日々のケアの中で注意しなければならないことや気になる対応などについては意見を出し合いながら、スピーチロック等気づけるよう取り組んでいる。	毎月身体的拘束適正化検討・高齢者虐待防止委員会を開催し日々の事案を検討する他、研修も年2回実施し理解の向上に努めている。法人独自のチェックシートにて言葉のチェックや質問、アンケートを企画し、職員に考える機会や自身のケアや支援の現状を振り返る取り組みを行っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は法人研修、内部研修に学ぶ場があり、参加を行うようにしている。また各入居者の担当者が中心になり、意見を出し合いながら、その方にとって安心した生活を送られるように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での定期的合同研修や、法人の定期合同研修へ職員は参加をしている。また参加できなかった者に対してもミーティングの際に説明を行ったり動画を見ながら理解を深めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、ご家族とホームにて内容等の説明を詳細に行いながら、疑問や不安を解消されご理解を得るように努めている。また長期にわたりホームでの生活を送っておられる方のご家族に対し、経済的不安や負担に対しても相談をしていただける関係性を持つよう努めている。重度化した場合は併設の特養への転居も実現している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には、相談や苦情に対しての受付体制を作り第三者委員や受付窓口の担当者を明示し、説明を行っている。意見や要望等は職員間できちんと話し合いながら、運営内容に盛りこんで行けるように努めている。個別での対応方法等月1回の報告書に詳細に記入し、現状を把握していただけるようにしている。	家族へは電話連絡にて意見確認し、コロナ禍以前では家族会や夏祭りにも聞く機会を設けていた。少しでも自宅に帰り過したい思いに昼までの帰宅を行った例がある。銀行口座の管理の心配がある利用者に対し、一緒に銀行へ行き対応するなど思いの具現化に努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、全職員に人事考課シートを配布し、提出後施設長と個別面談を行い、意見を話せる機会を設けている。また職員ひとりひとりに、委員会や外出行事やホーム内行事、昼食の日の献立など役割が有り、運営に携わりながらやりがいの持てる職場作りを心掛けている。	年2回施設長との面談やミーティング時、管理者が日々現場にいることでいつでも気軽に相談が行えるなど思いを表出する機会がある。職員間の関係など悩みの意見に助言をすると共に、ミーティングでチームワークについての話し合いの機会を設けることから始め改善に繋がった例がある。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シートを活用し、自己評価、上司の評価、面談などを年に2回行っている。業務での成果や、これからの課題なども共有し、実践できるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1日法人会議が行われ、様々な内容の研修を開催し、職員教育の場を設けている。併設施設との合同研修も行い、各職員のスキルアップに努めている。また外部の研修へは勤務の一環として多く参加させている。受講後は復命報告を提出し、他の職員にも回覧して情報共有を行っている。技術、対応法等はその都度職員同士で意見を出し、検討しながら身につけるようにしている。	法人内での研修体系を確立し、学ぶ機会も多く職員のスキルアップに繋げている。面談を通じて個人の力量や現状に応じて研修や資格取得を勧めている。管理者が日々技術指導を行う他、自ら認知症の事例問題の資料を作り職員全員で考えたり、訪問看護から実践的な指導を受けることもある。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム協会の勉強会等、勤務として参加、また市や県などの研修会にも参加を推進している。法人内での研修会があり、同法人内の職員同士が、意見交換や交流を持ちながら、良き相談相手として共に向上していけるよう取り組んでいる。本年度は、コロナ感染防止の観点からリモート会議にて参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には今生活を送っておられるところへ訪問したり、介護保険サービス利用の場に訪問し、生活環境を把握し、ご家族、関係者に現状を伺っている。またご本人やご家族からの要望等、細かくお聞きし、入居前にスタッフ間で、情報共有を行えるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にしっかり情報収集を行い、必ずご家族にも思いやご要望を伺っている。その情報を元に職員とミーティングを行いながら情報を共有している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報を、職員が共有し支援の内容を考え、対応できるように話し合いを行っている。その後サービス内容の変更が必要と思われる時にはその都度ご家族には説明をし、今現在のご本人の状況を報告を行い、ご理解していただけるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの共同生活の中で、ご本人の出来る力を把握し、様々な役割を持っていただけるように支援している。利用者と職員と一緒に楽しめる時間を共有できるように取り組みを行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも、その都度ご家族にお伝えし、対応の変更も報告している。利用者様を支えていくために、今の現状を把握していただき、理解していただくことで、共に支えていく関係作りを構築できるように取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に年賀状は、利用者様おひとりおひとりが、自筆で書いたり、印判やシールなどを貼り、個性あふれたお手紙を作成し出している。コロナ感染防止の為、現在は家族のみの面会とし、馴染みの方との関係継続においては可能な限り支援できるように努めている。	現在家族のみの面会であるが、従来は知人や友人の面会も受け入れ利用者それぞれの持つ人との繋がりを理解し関係性の継続に努めている。コロナ禍においても自宅に帰る支援を継続し取り組むことや、天満宮への参拝、向島桜祭りに行くなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにはそれぞれの方がくつろげる居場所があり、一緒に食事をしたり、洗濯物をたたんだり、野菜の皮をむいたり、貼り絵をしたり、時と場面によって、色々な方と席を共にされ、関係を築かれるように配慮しながら、支援を行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時には、アンケートをお渡しし、ホームに対しての意見をいただき、見直しを行う様に努めている。またご家族の方より、お便りをいただいたり、訪問された場合は、相談等以前と変わらない関係を継続している。他施設ご利用中であっても、状況によっては面会に行かせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との関わりを大切に、利用者の思いや言葉などを記録し、職員同士で共有できるように心がけている。各入居者の担当者が中心となり意向に沿った1日の過ごされ方のリズム表の作成及び見直しも随時行っている。	利用者個々の生活や暮らしをもとに生活リズム表を作成し、一人ひとり希望や好み、自分でできることやサポートが必要な部分を24時間のタイム表として可視化し支援している。本人の思いやそれぞれの心身状態の違いなど着目し希望に沿える1日の実現へ利用者本位に取り組んでいる。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集を行い、日々の会話で、収集した内容などに関してなど、面会時にご家族、知人の方と会話に交じり、話を伺う時間を儲けるように努めている。また聞き取った情報を職員間で情報共有出来るように記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりに身体記録、経過記録があり、身体記録には食事(水分)摂取量やバイタルなど、身体の状況がわかるようにまとめてあり、ホームでの役割や1日をどのように過ごされたかや、個々のもてる力を記入でき、情報共有を行っている。1日の生活リズム表を基に1日何もされずに過ごされる事がないように日々支援を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に問題やケアの方法などを検討している。利用者の状況把握のためのシートなどを活用し、管理者(計画作成担当者)と担当者が話し合い、介護計画を作成している。また24時間シートを活用し、利用者様の現状に合う支援について話し合い、職員全員が理解し、ケアの統一が行えるように取り組んでいる。	家族へ事前に意見を確認している。生活リズム表や利用者が日常から話すことや希望を反映できるよう意識し、利用者それぞれの担当者と管理者で話し合い介護計画を立案し、職員全員で確認し決定している。利用者の変化や必要に応じ都度見直し、現状に即した計画作成を行っている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体記録、経過記録、申し送り予定表(24時間シート)、排泄表など利用者様の日々の状況を詳しく記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また、新しい取り組みを行えるように努めている。ケアの方法の変更時などは、温故知新の書という書類を活用し、リアルタイムに実践をして経過を見るようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、職員同士の連携で優先順位を考えながら、支援を行っている。業務の改善案、ケアの改善案を、その都度スタッフが発案や提案し、確認の上、変更しその後の経過も見ながら取り組みを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前においては、地域のボランティアの方との交流も毎月1回は開催し、馴染みの関係性が多くあったが、コロナ感染防止の為に地域の行事も中止となり接触も控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のかかりつけ医が2週間に1度、訪問診療で直接利用者お一人おひとりを診察され、日々の状況を報告、相談を行い、指示または服薬の調整を行っている。必要時には紹介状で専門医の受診を行っている。訪問看護師の定期訪問も週1回あり、夜間緊急時にはかかりつけ医また訪問看護へ連絡を行い、利用者様が適切な医療を受けられるような体制になっている。	利用開始時にかかりつけ医について確認し、協力医に変更している。2週間毎に訪問診療があり、診察には職員が日々の状況を詳しく伝え健康管理を行っている。専門科への受診も紹介状をふまえ適宜行っている。訪問看護も週1回入り、何かあれば主治医へ連絡し連携できる体制である。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1回訪れ、職員からの報告、相談を受けている。記録物に目を通し、意見やアドバイスを職員に直接話したり、また記録に記入し残し、職員全員が共有出来るようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際にはホームでの生活の状況や身体状況など細かな情報提供を行っている。入院中も何度かご本人の面会を行い状況を把握できるように努めている。退院前には入院中の状況や、今後の注意点を担当医または看護師に情報提供をしてもらえるようお願いをし、ご本人が退院後に、以前のように安心でき、安心出来るホームでの生活に活かしていけるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合についてホームの指針をもとに説明を行っている。また状況にあわせ、その都度新たにご家族とは、今の状況で医療との連携を行いながら、どのような方針で進めていくのかなど話し合いを行っている。毎月状況は詳細にご報告をしていながら、ご家族の方にもご協力頂けるように取り組んでいる。	重度化した場合における対応の指針、看取り介護に関わる同意書を説明し意向確認している。重度化した場合は主治医や家族と話し合い、本人や家族の希望に沿い看取りの介護計画を作成している。大好きなパンを家族が沢山買って最期まで食べられるよう取り組んだ例がある。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時には、報告書に詳細に記入し、その日のうちに職員で話し合い対策または改善が必要ならすぐに行い、再発防止に努めている。家族にも報告を行い、対策についても説明させていただいている。日中、夜間緊急時の対応についても定期的に見直し再確認を行っている。	緊急時の対応訓練を年2回実施している。身体的拘束適正化検討・高齢者虐待防止委員会にて個別の事案を検討し対応を行っている。緊急時や感染症など各種マニュアルを整備し、転倒転落についてフローチャートも作成し、フロアに設置いつでも確認できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理委員会を設置している。併設施設との合同で年3回利用者様、職員参加で避難訓練を行っている。昼夜の火災想定や風水害の場合の避難訓練、避難経路の確認、通報訓練を行い、毎回見直し反省を行い次の訓練に活かせるように取り組んでいる。運営推進会議の際に報告を行い意見を伺いながら協力体制を構築できるように努めている。	防災管理委員会を設置している。災害時には敷地内併設特別養護老人ホームに避難するなど体制を整えている。避難訓練は年3回利用者も参加し実施しており、夜間想定訓練や避難経路確認などを行っている。訓練後見直しを行っている。備蓄も1週間分常備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者との関わりを大切にし、利用者の思いや言葉などを記録し、職員同士で共有できるように心がけている。言葉かけに関してもご本人が不快な思いをされないようにその時の環境や状況に合わせた対応を行うように努めている。各入居者の担当者が中心となり意向に沿った1日の過ごされ方のリズム表の作成及び見直しも随時行っている。	法人独自のチェックリストを活用し、日々のケアの中で利用者の尊厳を踏まえ対応や支援が行えているか振り返っている。一人ひとり今日はどうされるか伺い、本人の生活習慣や意向をもとに1日の生活リズム表を作成し、思いを汲み取りその人らしい生活が送られるよう取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日お茶や飲み物はお好きなものを選んでいただいたり、入浴も声かけをし、今日はどうされるのかはお伺いしている。余暇の過ごし方も何をされたいのかお声をかけ、希望に添えるように支援を行っている。職員は1日の中で何度か選択される機会をもうけ、お一人おひとりの思いを汲み取れるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、今日の予定をボードに記入し、希望があれば記入している。職員は、その日の状況に合わせてチームで取り組み希望に添えるように、支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際に、必要な生活用品または、衣類などはご本人の希望も伺い購入を行えるようにしている。活動着や寝巻きは、御自分で見て好みのものを選んで着ていただくように努めている。また、月に1回美容院の方に来ていただき、ご本人の希望に添えるようお願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々は厨房より食事は提供となっているが、月に1、2回は昼食の日として、ホームでお一人おひとりの日頃から伺った意見や、希望も入れながら、担当者が献立を立て、食事作りを行っている。野菜の皮むき、卵割りなど役割を持っていただき職員と一緒に昼食をつくり、一緒に食卓を囲み楽しめるように企画を立案している。	食事は併設事業所の厨房より提供している。月に1～2回「昼食の日」として利用者から聞いた希望を取り入れながら献立を考え、手作りや購入を行っている。誕生日には担当職員が外食など行事を企画し本人の意向を反映した支援を行っている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体記録には1日の食事摂取量や水分摂取量を記入し把握出来るようにしている。同敷地内の特養管理栄養士にも相談を行い体調や食事の状況の変化に合わせ、食事の形態や食事量を検討し、変更を行ない、経過を見るようにしている。水分量にも常に気を配りながら、随時お勧めをし補えるように努めている。また夜間にも、お聞きし水分をお出しするようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け誘導や見守り、入れ歯の洗浄や消毒等も行い、口腔内の清潔保持に努めている。定期的に同敷地内特養の歯科衛生士の訪問もあり、口腔内の痛みまた入れ歯の不具合等利用者の方より訴えがある場合は、協力医療機関の訪問歯科診療を受けるようにしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1日の排泄状況を一目でわかるような記録にし、個々の排泄パターンを踏まえながら、声掛け誘導で汚染を防げるように、支援を行っている。トイレでの排泄が行える事が、不安解消につながる事と考え、スタッフが会話からだけでなく、個々の表情や行動を理解できるように努めている。おむつに関しては自己負担ということで適切な使用方法を随時検討している。	24時間の排泄チェック表を作成し、個々の排泄状況や間隔、パターンを把握している。声掛けも利用者に合わせたタイミングで行い、トイレの場所が分からない方に定時に誘導を続けたことで間隔が身に付き、自分からトイレに行けるようになった例がある。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を確認し、水分はお茶ばかりではなく、便通の良くなるおやつや飲み物などを提供している。毎身体操は食前に行い、室内レクなど体を動かすことに参加していただけるよう毎日の日課として、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前、午後、また時間や順番は特に決めておらず、安全に行えるように考えている。お声をかけ承諾いただき、毎日希望されても入浴していただけるように努めている。	各利用者2日に1度の頻度にて入浴を実施し、毎日の入浴希望も可能としている。時間や順番は特に定めず利用者の希望やタイミングに合わせ、入りたくない時は無理強いせず職員がわりながら声掛けや日にちを変更するなど柔軟に対応している。個人で好みのシャンプーの持参もできる。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室 リビングでの休息は、お一人おひとり自由に好きな場所でくつろいでいただけるように考えている。夜はゆっくり横になっていただけるようにし、時間を見て居室へ訪室し、睡眠の状況の把握し、お一人おひとりの生活習慣を崩されないように支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が次の日の薬セットの役割を持っている。薬に関する情報のファイルがあり、薬の目的、用法、容量などを目で見る機会があることで、職員が入居者の方の病状を理解をしながら、その方の変化や状態の確認を行えるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの1日の生活のリズムを考え、何事もスタッフで行わず役割が持てるよう支援している。今日の予定などを一緒に考え、楽しみが持てる関わりが出来るように努めている。毎月の行事予定を掲示し、外出や一緒に調理を行う昼食の日など、楽しみ事が多くなるように支援している。また生活歴をご家族から情報収集を行い、生きがいづくりに役立てるように支援している。	個々の今までの生活や意向をもとに24時間タイム表を作成し、一日の生活リズムを作ることができることややりたいことを明確にし支援している。朝に今日の予定を利用者と共に考えることや、昼食の日や行事計画など楽しみに繋がるよう検討を行い、にぎやかで活動的な生活支援となっている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて、施設外への散歩を希望に添えるように努めている。また誕生日にはスタッフと事前に話し合い、希望に添える個別外出をしていただいている。外出行事は、見慣れた懐かしい場所、また今しか行けないところなどを企画し、事前に問い合わせご協力いただけるようお願いをし、利用者の方々に負担なく楽しんでいただけるように努めている。	法人敷地内の散歩が日課であり、利用者自身が行こうという気持ちを持ち、その言葉が自然と出てくるようコミュニケーションを行っている。コロナ禍であるが、花見や紅葉狩りなど行事を企画し外出をしたり、誕生日には希望に添える個別外出を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事では、昼食に御自分で好きなメニューを見られ、選んで食べていただいたり、生活に必要なものや新しく購入が必要なものなどは、誕生日個別外出の時に、御自分で好みにあった品物を選ばれ、購入していただけるように支援を行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にご理解をいただき、利用者様のご希望があれば、電話はかけさせていただけるようにご協力いただいている。敬老の日のご家族に手紙をお願いし、当日ご本人にお渡しし、読んでいただくことを行っている。今年度は、コロナ渦の為、ご家族様からの電話が多くあり、入居者様が落ち着いてお話しが出来るような場所作りを行った。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節を感じていただけるように、飾り作りや壁画を利用者同士共同制作を行い、1ヶ月ごとに室内の装いに変化を持たしている。居心地よくつるげるために、共有スペースの家具の配置やソファの位置等、安心出来る雰囲気作りを工夫している。	リビングはゆとりがあり、吹き抜けの天井にてく開放感ある空間である。壁面には毎月利用者が職員と一緒に作成した作品が飾っており、季節が感じられ、アットホームな雰囲気となるよう工夫している。家具やソファの配置に配慮し、利用者自身自分の居たい場所で過ごせるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの席は特に決めておらず、気の合う方とお好きな場所で過ごされることができ、また集団レクや創作活動等ではテーブルの配置を変え、1つのテーブルに集まれるようにし、交流が持てる工夫を行っている。一人になりたい時にも、ご自分で行きたいところに移動されるように手すりの位置などを考えながら居心地のよい空間づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、ご自宅より持参された馴染みのものを配置して、お一人おひとりの生活のしやすい環境を個別で検討している。またお好きなものや作品などを目に付く場所におけるようにしている。居室にも写真やカレンダーを飾り、ご自分のお部屋に愛着が持てるように工夫している。お一人おひとりの個性を活かし過ごしやすい居室作りを心掛けている。	自宅での生活習慣を参考にし、一人ひとりが生活しやすい環境づくりを行っている。家具なども馴染みの物を自由に持参でき、室内には作品や写真などを飾っている。家族からの手紙を大事に保管し飾ったり、ファイルにして好きな物が目につく配慮など居心地よく過ごせる工夫がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様各々の、できる力を発揮していただけのように、身体状況に合わせたテーブルや椅子の配置を考え随時変更を行いながら工夫している。また、必要な福祉用具等の検討もしながら、安全に生活を送られるように支援を行っている。出来る事は見守り、できないことは声かけをしながら、一緒に行い、必要な支援を行う様に努めている。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホーム自由の杜

作成日

令和5年12月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	21	以前は、地域の方や、ボランティアの方々などが良く訪問されていたが、コロナ禍により、制限した為に訪問される事が無くなってきた。	環境を整えながら、ボランティア様との関係を復活できる。	ホームでの行事等に参加していただくような環境を整え、家族様が参加可能な行事等を提案し、運営推進会議の際にも、施設の見学等を増やしながら、入居者様との談話へと発展させる。	1年
2	35	転倒などの事故が増えてきている。	全ての職員は事故発生時には迅速で、的確な対応が出来る。	現在も常に対応の訓練を行っているが重度化した入居者様も増えてきた為に様々な対応の仕方などのレクチャーも増やして実践につなげる。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。